

# 主要国の野菜の生産動向等

調査情報部

## 1 中国

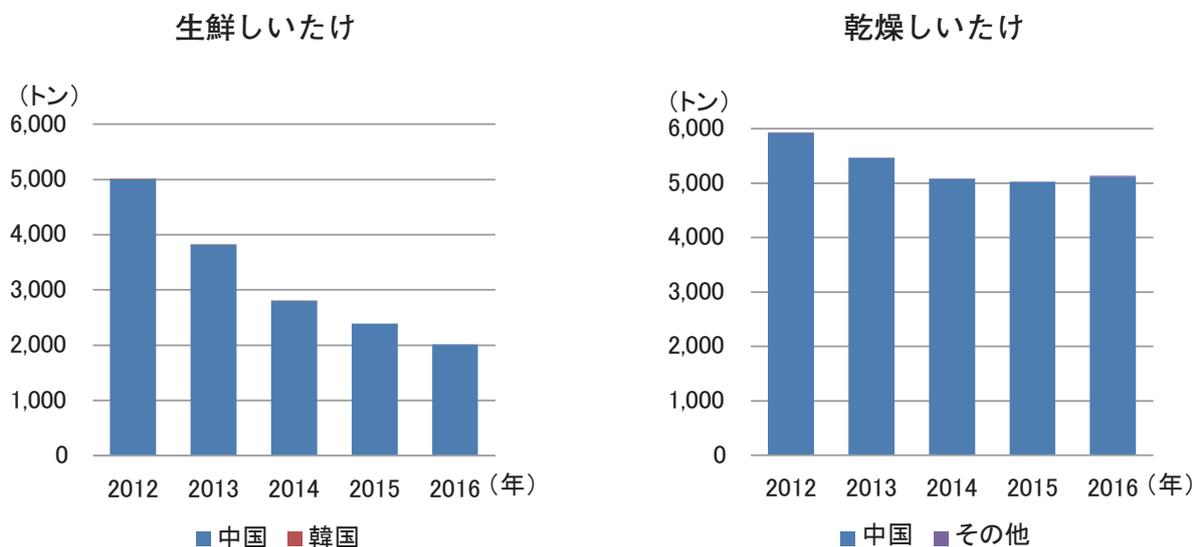
日本が輸入するしいたけのほぼ全量が中国産であることから、今月号では、生産量の3割を占める河南省を中心に中国のしいたけの生産動向等を紹介する。

### (1) 日本における中国産しいたけの位置付け

日本は、生鮮しいたけ、乾燥しいたけともにほぼ全量を中国から輸入しており、2016年は、生鮮しいたけは全量、乾燥しいたけは99.6%が中国産であった（図

1）。輸入量は、生鮮しいたけは年々減少し、2016年は2015トン（前年比15.6%減）となった一方、乾燥しいたけは近年わずかな減少はあるものの安定しており、2016年は5134トン（同1.8%増）となった。

図1 日本のしいたけの国別輸入量

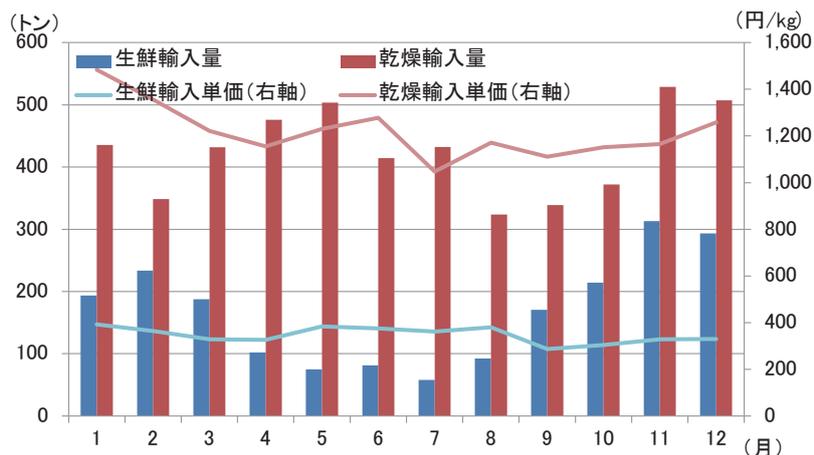


資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：財務省「貿易統計」）

中国産しいたけの輸入量を月別に見ると、生鮮しいたけは、鍋などのシーズンである冬期に増える傾向がある一方、乾燥しいたけは、年間を通じて輸入されている（図2）。

なお、本稿中の為替レートは1元＝17円（2017年6月末日T T S相場：16.79円）を使用した。

図2 中国産しいたけの月別輸入量および輸入単価（2016年）



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：財務省「貿易統計」）

## (2) 生産動向

中国では、経済成長に伴う食の多様化により、しいたけの消費量が増加してきた。多くの農家が規模拡大を行い生産量が増加したことから供給過多となり、価格の下落を招いた。この結果、生産者の生産意欲が低下し2015年以降の生産量は減少傾向にある（表1）。

しいたけの主産地は、河南省、河北省、湖北省、浙江省、福建省などであり（図3）、特に河南省は、昼夜の温度差が大きく、しいたけの栽培に適していることから、全国生産量の約3割を占める最大の産地である（表1）。

河南省における主産地は、南陽市（西峡県、南召県、内郷県）、三門峡市（盧氏県）、駐馬店市（泌陽県）であり、その

中でも南陽市の西峡県は中国最大の乾燥しいたけ産地で、日本や韓国、米国などの国外向けが多い。その他の産地は主に国内向けで、山西省太原市など近隣の都市で販売されることが多い。

しいたけには菌床栽培と原木栽培の2種類の栽培方法があるが、菌床栽培は原木栽培に比べ低コストであること、環境保護のための伐採制限により原木の入手が困難であることなどから、現在はほとんどの地域で菌床栽培によって生産されている。

注：中国では、大きい行政区分から順に、「省級（省、自治区、直轄市など）」、「地級（地級市、自治州など）」、「県級（県、県級市、市轄区など）」などとなっている。南陽市、三門峡市、駐馬店市、太原市は地級市であり、西峡県、南召県、内郷県、盧氏県、泌陽県は県級である。

表1 中国全体および河南省におけるしいたけ生産量（単位：万トン）

	中国全体	河南省	河南省の割合
2010年	428	120	28.1%
2011年	502	150	29.9%
2012年	636	200	31.5%
2013年	710	228	32.1%
2014年	769	240	31.2%
2015年	745	247	33.2%
2016年	715	250	35.0%

資料：聞き取りにより機構作成





写真1 しいたけを収穫する様子



写真2 収穫したしいたけを乾燥させている様子



写真3 加工工場においてしいたけを選別している様子（提供：新華網）



写真4 日本向けの乾燥しいたけ

### (3) 生産コスト

河南省の10アール当たり生鮮しいたけの生産コストの動向を見ると、2016年は、10万8030元（183万6510円、2013年

比27.9%増）と大幅に増加している（表2）。特にコスト全体の9割を占める菌床費が2013年比で約3割増加している。また、人件費の増加は2割となっている。

表2 河南省の生鮮しいたけの10アール当たり生産コスト

項目	2013年 (元/10a)		2016年 (元/10a)		2016年 / 2013年比 (増減率)
		円換算 (円/10a)		円換算 (円/10a)	
土地代	600	10,200	900	15,300	50.0%
菌床費	78,750	1,338,750	101,250	1,721,250	28.6%
肥料農薬費	0	0	0	0	—
資材費	2,400	40,800	2,700	45,900	12.5%
農機具費	0	0	0	0	—
人件費	2,400	40,800	2,880	48,960	20.0%
その他	300	5,100	300	5,100	0.0%
合計	84,450	1,435,650	108,030	1,836,510	27.9%

資料：聞き取りにより機構作成

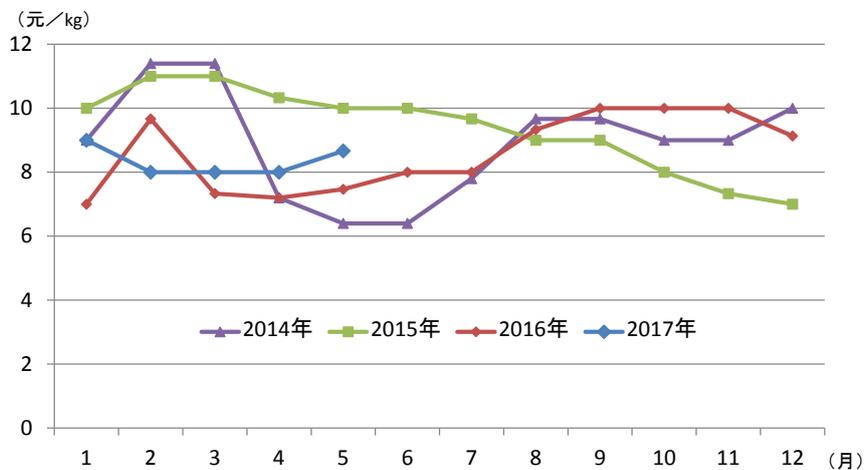
注：四捨五入や為替換算の関係から、項目間の計算において、誤差が生じることがある。

#### (4) 価格動向

2014年以降の河南省の生鮮しいたけの卸売価格をみると、他の生鮮食品同様、新

年や春節（旧正月）需要の影響を受ける1月、2月に上昇する傾向がある（図5）。また、しいたけの供給量が少なくなる8月、9月も価格が高くなる。

図5 生鮮しいたけの卸売価格の推移（河南省）



資料：河南三门峡西原店镇野菜卸売市場

#### (5) 輸出動向

生鮮しいたけの輸出量は、2万トン前後で安定してきたが、2015年以降減少傾向にあり、2016年は、1万8000トン（前年比10.7%減）となった。主な輸出先は、韓国および米国となっており、2016年の

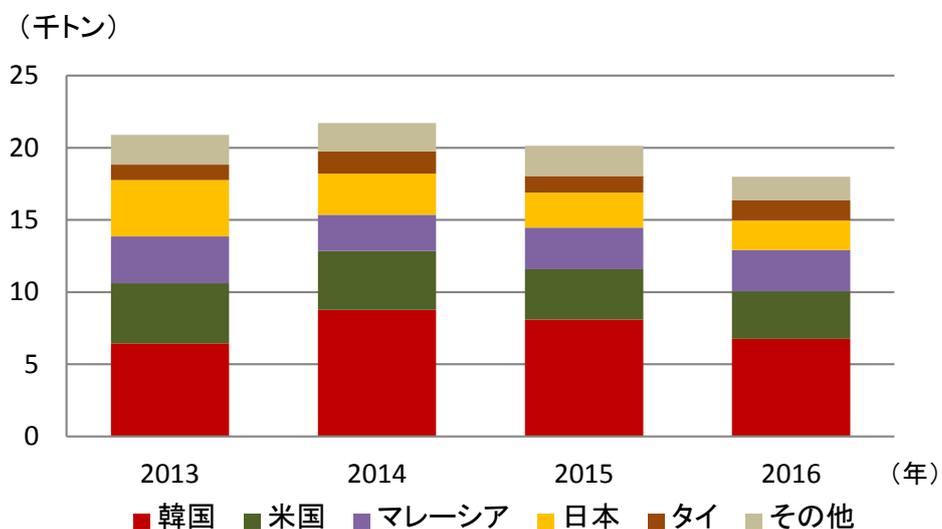
日本向けは11.3%である（図6）。

一方、乾燥しいたけの輸出量はここ数年増加傾向で推移しており、2016年は9万1538トン（同18.4%増）となった。特に香港向け、ベトナム向けが増加している（図7）。現地の輸出業者によると、香港に輸出されたしいたけは現地で消費されるだ

けでなく、東南アジアへ再輸出されるものもあるという。東南アジアには中華系の人

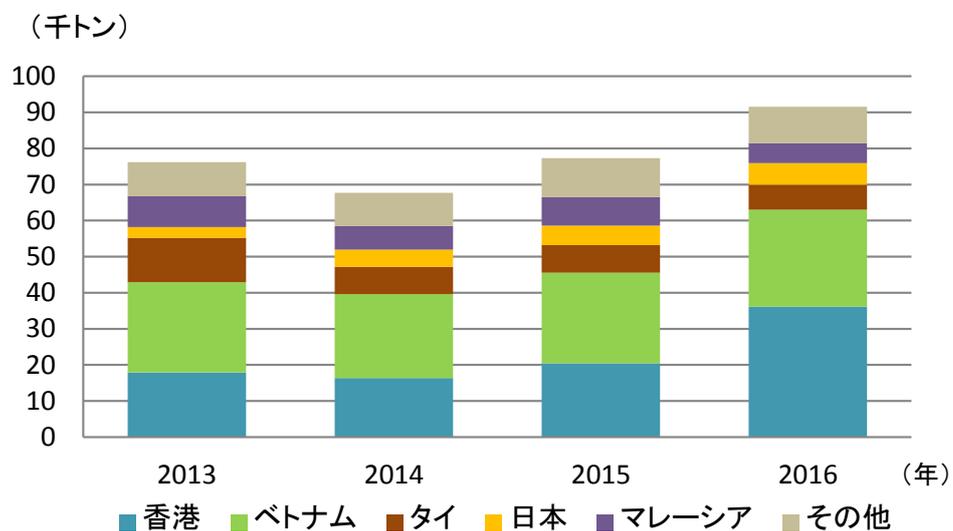
口が多く、しいたけの需要も大きい。2016年の日本向けは6.5%を占めている。

図6 中国の生鮮しいたけの国別輸出量



資料：「Global Trade Atlas」  
注：HSコード07095920

図7 中国の乾燥しいたけの国別輸出量



資料：「Global Trade Atlas」  
注：HSコード07123910

## 2 米国

米国からは、日本への輸出が多いブロッコリー、レタスおよびセルリーについて、それらの主産地であるカリフォルニア州を中心とした生産動向などを紹介する。また、トピックスとして、レタスについて全米レベルでの生産および消費の状況を報告する。

### (1) ブロッコリー、レタスおよびセルリーの生産動向

#### ア ブロッコリー

##### (ア) 作況および作付面積

5月中旬以降、冷涼な天候によりブロッコリーの出荷が堅調で、価格は低調に推移した。

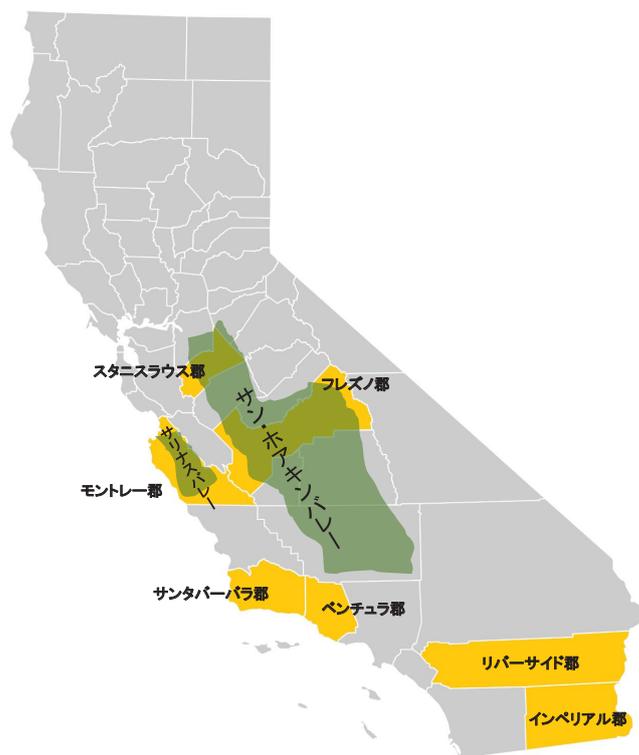
以下、本稿中の為替レートは、1米ドル＝

113円（2017年6月末日T T S相場：113.00円）を使用した。

##### (イ) 生産者価格

2017年4月の生鮮ブロッコリーの生産者価格は、1～2月の豪雨による出荷量の減少を起因とする価格の高騰により、前年同月比2.4倍の1キログラム当たり2.11米ドル（238円）となった（表1）。

図1 カリフォルニア州の地図



資料：機構作成

表1 全米の生鮮ブロッコリーの生産者価格

(単位：米ドル/kg)

	2016年										2017年			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
生産者価格	0.87	1.06	1.09	0.80	0.62	0.81	0.83	0.79	0.77	1.23	1.19	1.56	2.11	

資料：米国農務省全国農業統計局 (USDA/NASS)

5月中旬以降、出荷量が増加したことを受けて、5月25日時点の販売価格は1カートン(14個入り)当たり11.50～13.50米ドル(1キログラム当たり1.11～1.31米ドル：125～148円)であった。その後も低調に推移し、6月8日時点では、同10.55～11.55米ドル(同1.02～1.11米ドル：115～125円)と値下がりがした。

(ウ) 対日輸出動向

2017年4月のブロッコリーの対日輸出量は、前年同月の約4分の1となる723トンであった(表2)。また、輸出単価は前年同月をわずかに上回り、1キログラム当たり1.25米ドル(141円)であった。

表2 米国産ブロッコリーの対日輸出動向および輸出額

(単位：トン、千米ドル、米ドル/kg)

	2016年										2017年			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
輸出量	3,023	2,117	2,676	2,387	2,761	3,628	3,829	3,837	1,696	1,271	1,027	559	723	
輸出額	3,629	2,478	3,411	2,944	3,331	4,013	4,574	4,740	2,192	1,676	1,377	797	905	
単価	1.20	1.17	1.27	1.23	1.21	1.11	1.19	1.24	1.29	1.32	1.34	1.43	1.25	

資料：米国農務省海外農業局 (USDA/FAS GATS Database)

(エ) 東京都中央卸売市場の入荷量および価格

2017年4月の東京都中央卸売市場の米国産ブロッコリーの入荷量は、前年同月の約4分の1となる41トンであった(表3)。また、卸売価格は、同8.2%安の1

キログラム当たり324円であった。なお、同月に同市場で最も入荷量が多かったのは香川産で、入荷量は前年同月比77.3%増の1119トン、卸売価格は米国産を大幅に上回る同455円であった。

表3 東京都中央卸売市場の米国産ブロッコリーの入荷量および平均卸売価格

(単位：トン、円/kg)

	2016年										2017年			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
入荷量	162	143	117	115	118	160	189	150	143	69	39	41	41	
卸売価格	353	323	343	340	310	379	398	351	314	304	319	252	324	

資料：東京都中央卸売市場

イ レタス

(ア) 作況および作付面積

現地報道によると、5月のカリフォルニア産のレタスの収穫作業は、3～4月に続いていた収穫の遅れからようやく落ち着きを見せた。カリフォルニア州での収穫の遅れは、1月末から2月初旬にかけて降雨が

続いたことにより、多くの農家が播種<sup>はしゅ</sup>作業をできなかったことが要因であり、これにより3月下旬から4月下旬まで価格は高騰していた。

Ippolito International社によると、同社は1月から2月の多雨による供給ギャップが起こらないように作付地を分散した。



写真1 モントレー郡サリナスでのロメインレタスの収穫の様子  
(Ippolito International社 2017年5月19日撮影)

このため、収穫期にも収穫人員や機材を分散して配置することが必要となり、収穫を担う約900人の労働者の確保に苦労があった。

現地報道によると、5月中下旬の結球レタスの出回り量は安定しており、品質も良く、堅調な供給と中程度の需要に支えられていた。グリーンリーフレタスについても、出回り量が多かったため値下がりした。

また、6月初旬、結球レタスは2月初旬の播種が行えなかったことによる供給不足が発生していた。一方、ロメインレタスは、

多少の葉先枯れ（チップ・バーン）などが見られたものの、出荷量も例年より多く、需要も堅調であった。グリーンリーフレタスは、供給が需要を超えており、品質は良いものの、一部では葉先枯れが見られた。

#### (イ) 生産者価格

2017年4月の結球レタスの生産者価格は、市場価格の高騰を反映して前年同月比約4倍の1キログラム当たり1.82米ドル（206円）と、前月を大幅に上回った（表4）。

表4 全米の結球レタスの生産者価格

（単位：米ドル/kg）

	2016年									2017年			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
生産者価格	0.46	0.72	0.57	0.57	0.46	0.46	0.45	0.59	0.67	0.64	1.13	1.09	1.82

資料：米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）

5月25日時点のモントレー郡サリナス産の結球レタスは1カートン（24個入り）当たり7.45～8.56ドル（1キログラム当たり0.33～0.38米ドル：約37～43円）、ロメインレタスは同6.45～8.56ドル（同0.28～0.37米ドル：約32～42円）、グリーンリーフレタスは同6.45～8.55米ドル（同0.28～0.38米ドル：約32～

43円）で取引されており、いずれも前週からわずかに値下がりした。

また、6月1日時点のサリナス産の結球レタスは同11.45～11.65ドル（同0.51～0.52米ドル：約58～59円）と前週から値を上げた。ロメインレタスは同6.00～7.65ドル（同0.26～0.33米ドル：約29～37円）、グリーンリーフレタスは同



写真2 米国の小売店で販売される結球レタス  
(2017年6月7日撮影)

6.45～7.56米ドル（同0.29～0.33米ドル：約33～37円）で取引されていた。

### (ウ) 対日輸出動向

2017年4月の結球レタスの対日輸出量は、前年同月比44.4%減の65トンで、輸出単価は前年同月比25.4%安の1キログラム当たり1.03米ドル（116円）であった（表5）。一方、結球レタス以外のレタスの対日輸出量は、同約53.8%増の60トンで、輸出単価は同11.2%安の1キログラム当たり1.35米ドル（153円）であった（表6）。

表5 米国産レタスの対日輸出量および輸出額（結球レタス）

(単位：トン、千米ドル、米ドル/kg)

	2016年									2017年			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
輸出量	117	197	205	253	330	389	458	505	233	150	103	64	65
輸出額	162	223	216	245	342	435	490	531	277	188	111	85	67
単価	1.38	1.13	1.05	0.97	1.04	1.12	1.07	1.05	1.19	1.25	1.08	1.34	1.03

資料：米国農務省海外農業局（USDA/FAS GATS Database）

表6 米国産レタスの対日輸出量および輸出額（結球レタス以外）

(単位：トン、千米ドル、米ドル/kg)

	2016年									2017年			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
輸出量	39	27	14	29	4	50	1197	417	78	4	5	75	60
輸出額	60	29	12	77	12	99	2478	899	258	16	18	87	81
単価	1.52	1.07	0.86	2.63	3.24	1.99	2.07	2.15	3.31	4.32	3.46	1.16	1.35

資料：米国農務省海外農業局（USDA/FAS GATS Database）

### (エ) 東京都中央卸売市場の入荷量および価格

2017年4月、結球レタス以外の米国産レタス（ロメインレタス、フリルレタスなど）は東京都中央卸売市場に入荷されなかった（表7）。なお、同月に同市場で最

も入荷量が多かった結球レタス以外のレタスは茨城産で、入荷量は前年同月比3.2%減の113トン、卸売価格は1キログラム当たり280円であった。

表7 東京都中央卸売市場の米国産レタスの入荷量および平均卸売価格（結球レタス以外）

(単位：トン、円/kg)

	2016年									2017年			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
入荷量	0.5	0.2	0.5	0.2	0.5	0.4	1.6	1.6	0.5	0.2	0.5	0.6	-
卸売価格	518	518	399	518	518	518	239	106	518	518	518	518	-

資料：東京都中央卸売市場

## ウ セルリー

### (ア) 作況および作付面積

現地報道によると、5月19日の週は、ベンチュラ郡オックスナードで収穫が遅れたため、出荷量の減少を起因とする値上がりが見られた。需要期であるメモリアル・デー（5月28日）前後でも引き続き同郡からの出荷が遅れ、6月の初旬においても需給がひっ迫していた。

### (イ) 生産者価格

2017年4月のセルリーの生産者価格は、極度の品薄により前年同月比約2倍の1キログラム当たり0.87米ドル（98円）と、今年に入ってから最高値を更新した（表8）。

5月19日時点のオックスナード産セルリーの販売価格は、前週から値を上げ、1カートン（24茎）当たり50.50～52.95米ドル（1キログラム当たり1.85～1.94米ドル：209～219円）となった。翌週の5月25日時点では、出回り量が低調に推移したことから、同53.55～55.55米ドル（同1.96～2.04米ドル：221～231円）とさらに値上がりした。6月1日時点で同50.15～54.95米ドル（同1.84～2.01米ドル：208～227円）とわずかに値下がりを見せ6月8日時点では同20.25～25.55米ドル（同0.74～0.94米ドル：84～106円）と前週から5～6割値下がりした。

表8 全米の生鮮セルリーの生産者価格

(単位：米ドル/kg)

	2016年												2017年			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月			
生産者価格	0.44	0.58	0.41	0.39	0.36	0.35	0.41	0.59	0.38	0.39	0.34	0.54	0.87			

資料：米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）



写真3 米国の小売店で販売されるセルリー（2017年6月7日撮影）

### (ウ) 対日輸出動向

2017年4月のセルリーの対日輸出量は、前年同月比17.6%減の554トンで、輸出単価は、同14.1%安の1キログラム当たり0.67米ドル：76円）となった（表9）。

表9 米国産セルリーの対日輸出量および輸出額

(単位：トン、千米ドル、米ドル/kg)

	2016年												2017年			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月			
輸出量	672	607	555	697	602	597	620	819	431	696	534	797	554			
輸出額	526	533	534	635	511	400	417	625	315	444	340	439	371			
単価	0.78	0.88	0.96	0.91	0.85	0.67	0.67	0.76	0.73	0.64	0.64	0.55	0.67			

資料：米国農務省海外農業局（USDA/FAS GATS Database）

## (エ) 東京都中央卸売市場の入荷量および価格

2017年4月の東京都中央卸売市場の米国産セルリーの入荷量は32トン（前年同月比23.1%増）で、卸売価格は1キログラム当たり213円（同0.9%安）であった

（表10）。なお、同月に同市場で最も入荷量が多かったセルリーは静岡産で、入荷量は462トン、卸売価格は米国産を大幅に上回る同300円であった。

表10 東京都中央卸売市場の米国産セルリーの入荷量および平均卸売価格

（単位：トン、円/kg）

	2016年									2017年			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
入荷量	26	25	25	26	27	26	32	33	37	27	27	33	32
卸売価格	215	222	208	204	201	209	214	210	212	202	204	204	213

資料：東京都中央卸売市場

## (2) トピックス

### ～米国のレタスの生産および消費状況～

#### ア 概要

米国のレタス生産の約7割は、カリフォルニア州で行われており、同州とアリゾナ州でほぼ全量を生産している（図2）。カリフォルニア州では通年で栽培されているが、出荷は5～6月が最盛期で、12～1月が最も少ない。この冬期の出荷量の少なさは、アリゾナ州西部のユマ郡での栽培が活発なことに起因する。

1920年代初頭には、カリフォルニア州ロサンゼルス市とインペリアル郡で、全米で生産されるレタスの大半が栽培されてい

た。しかし、1930年代になると、ロサンゼルス市の農業は、工業化に伴い落ち込んだ。また、インペリアル郡についても、同州全域に産地が拡大し、特に、州中央部サリナスバレーでの生産が開始されたことから、同郡の市場シェアは1923年の55%から1930年には33%へと低下した。サリナスバレーがあるモンレー郡では、肥沃な土地を利用したてん菜の栽培が盛んで、砂糖産業のための鉄道が整備されていたが、レタス栽培が盛んになると、この鉄道に沿って収穫作業が行われ、調製・保管施設も整備された。このようにして新鮮なレタスを運搬するインフラが強化されていったのである。

図2 レタス生産地分布（2012年）



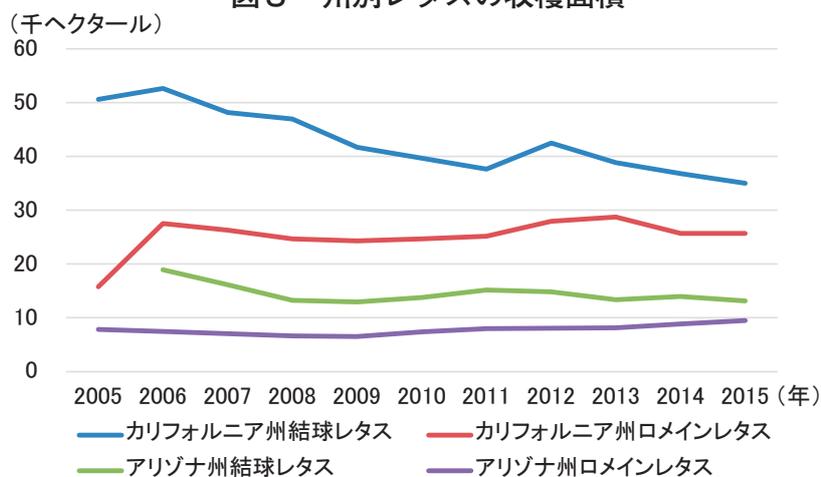
資料：USDA/NASS

注：青い点1つが収穫面積300エーカー（120ヘクタール）を示す。

2006年以降、カリフォルニア州とアリゾナ州のレタスの収穫面積は、結球レタスが減少する一方、ロメインレタスは増加傾向にある（図3）。カリフォルニア大学デービス校の報告書「Commodity Profile: Lettuce」によると、これは、消費者が2004年ごろからロメインレタスやリーフレタスを好む傾向になっているためとみられている。ロメインレタスの消費量が増え

た理由の一つとして、シーザーサラダが多くの飲食店で出回ったことが挙げられる。また、リーフレタスおよびロメインレタスの消費量が増えている理由として、量販店で販売しているパッケージサラダが普及していることが挙げられる。これらにより、各種レタスの作付面積が変化しているとも考えられる。

図3 州別レタスの収穫面積

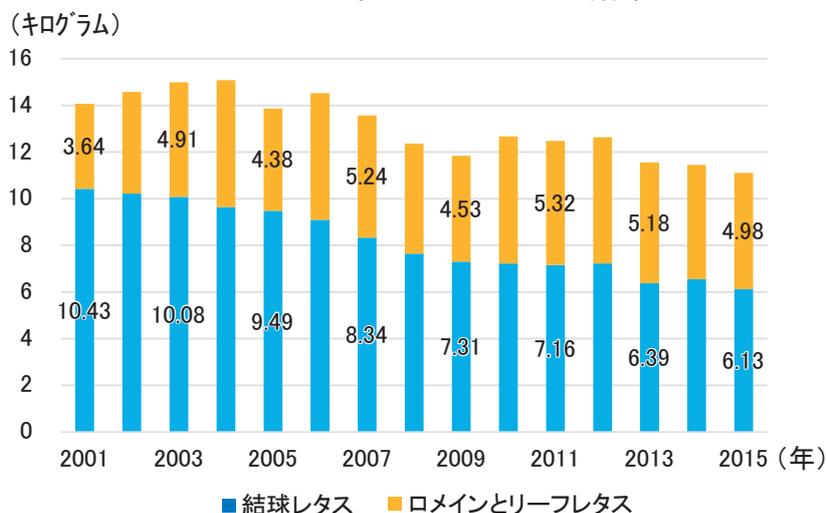


資料：USDA/NASS

また、米国におけるレタスの一人当たり年間消費量を見ると、2004年を境に減少傾向となっている（図4）。サラダに利用される野菜が多様化し、ほうれんそう、ルッ

コラ、エンダイブ、みずな、チコリーなど、レタス以外の野菜へと変化していることが一因として考えられる。

図4 一人当たりのレタスの消費量



資料：USDA/NASS [Vegetables and Pulses Yearbook 2016]

## イ 主な品種

カリフォルニア州で栽培されているレタス（結球）の品種は、地域によって異なっている。また、毎年、その年に予想される病気や天候に耐性のある種子の購入が増える傾向にあるという。種子は、播種機によって直播きされ、苗を移植することはない。

同州の南部（インペリアル郡、リバーサイド郡）では、アコレード（Accolade）、アニー（Annie）、ビーコン（Beacon）など約35品種が使われている。なお、同州の育苗会社Gowan Seed Companyによると、2017年はスピードウェイ（Speedway）、サリュート（Salute）、カヨーテ（Coyote）が多く購入されている。

同州の中部沿岸地域（モントレイ郡、サンタバーバラ郡、ベンチュラ郡など）では、褐色根腐病（コルキールト）などに耐性のあるエルドラド（El Dorado）、ターゲット（Target）、ピーバス251（Pybas 251）など約18種が使われており、2017年はリライアンス（Reliance）、シュアショット（Sure Shot）、リージェンシー（Regency）、インディペンデンス（Independence）が人気であるという。

また、同州中部内陸地域（サン・ホアキンバレー）では、通常、秋期にはクルーセーダー（Crusader）、ダイヤモンドバック（Diamondback）、レイダー（Raider）、サイドウィンダー（Sidewinder）、サンデビル（Sun Devil）が、春期にはアニー、ブバ（Bubba）など約13種が栽培されているが、2017年はスピードウェイ（Speedway）、ヘッドマスター

（Headmaster）、ダイヤモンドボール（Diamond Ball）が売れたそうである。

現地報道によると、最近、アリゾナ州でのレタスの根腐病が増えている。1950年代に日本で発生が確認された根腐病は、カリフォルニア州とアリゾナ州でそれぞれ1993年と2001年に発見されたが、現在はイタリア、ポルトガル、ブラジル、アルゼンチン、直近ではオランダで確認されている。連作により被害が拡大するので、発生株の除去・輪作体系・健全な土壌作りが重要だとされている。デルソル（Del Sol）とデュケイン（Duquesne）といった品種が、同病の原因となるフザリウム菌に中程度の耐性があるとされている。

## ウ カリフォルニア州の生産概要

カリフォルニア州食料農業局（CDFA）によると、同州の郡別生産シェアはモントレイ郡が1位で69.2%、その後にインペリアル郡（10.6%）、サンタバーバラ郡（5.2%）、フレズノ郡（4.8%）などが続く。インペリアル郡では、リバーサイド郡やアリゾナ州ユマ郡と並んで冬期（9月中旬～3月下旬）にレタス栽培が行われているが、モントレイ郡、フレズノ郡は、春期（1月初旬～7月下旬）と夏期（4月上旬～10月下旬）に栽培が行われている。

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、カリフォルニア州における2016年の収穫面積は、結球レタスが前年比3.5%増、リーフレタスが6.0%増、ロメインレタスが10.2%増となった（表11）。

カリフォルニア州においては2011年から2014年まで断続的な干ばつが続いており、結球レタスの生産量は、2015年に発生した深刻な干ばつによって大幅に減少した経緯があるものの、2016年には、約

158万トン（前年比6.2%増）と一定の回復が見られた。また、リーフレタスが約49万トン（同8.4%減）、ロメインレタスが約92万トン（同6.6%増）となった。

表11 カリフォルニア州のレタス面積、生産量および単収

(単位：ヘクタール、トン、トン/10アール)

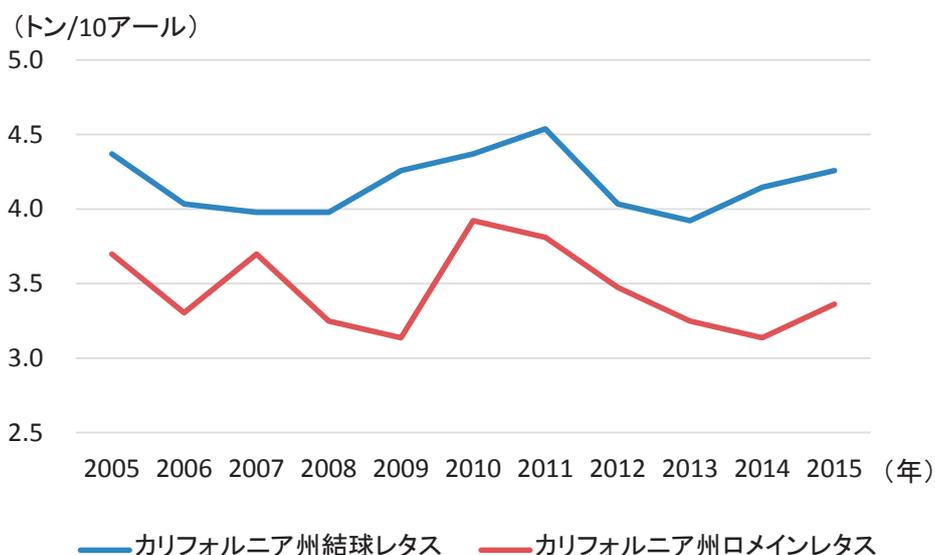
種類		2014年	2015年	2016年	前年比 (増減率)
結球レタス	作付面積	37,232	35,209	36,423	3.4%
	収穫面積	36,827	35,006	36,220	3.5%
	生産量	1,527,261	1,490,973	1,583,280	6.2%
	単収	4.15	4.26	4.37	2.6%
リーフレタス	作付面積	18,616	19,021	20,154	6.0%
	収穫面積	18,616	19,021	20,154	6.0%
	生産量	500,771	540,143	494,965	▲ 8.4%
	単収	2.69	2.89	2.51	▲ 13.2%
ロメインレタス	作付面積	25,901	25,901	28,693	10.8%
	収穫面積	25,698	25,698	28,329	10.2%
	生産量	806,496	864,102	920,802	6.6%
	単収	3.14	3.36	3.25	▲ 3.3%

資料：USDA/NASS「Vegetables 2016 Summary」

単収については、結球レタスは2005年以降、10アール当たり約4～4.5トンと、過去10年間比較的安定して推移しており、2015年の干ばつ時にも高い水準であった。このことから、2015年の生産量の減

少は、干ばつの影響による作付面積の減少によるものとみられ、2015年の作付面積は、前年から約2000ヘクタール減の3万5209ヘクタールとなっている（図5）。

図5 レタス単収の推移

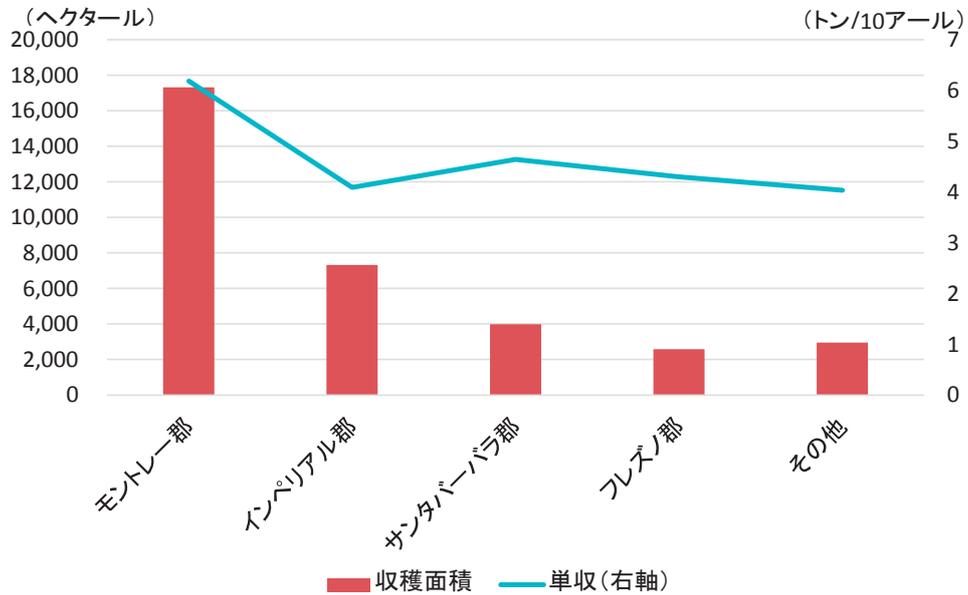


資料：USDA/NASS

また、2015年の結球レタスとロメインレタスの収穫面積を郡別に見ると、モントレレー郡が圧倒的に大きい。単収についても、

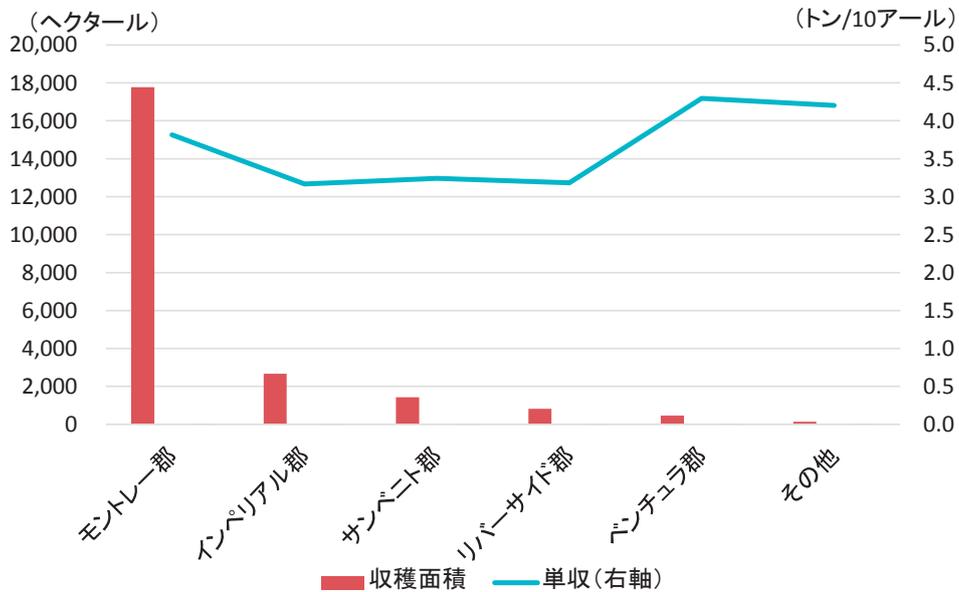
主要生産州の中で比較的良い状況である(図6、7)。

図6 郡別結球レタス収穫面積および単収(2015年)



資料：USDA/NASS

図7 郡別ロメインレタス収穫面積および単収の推移(2015年)



資料：USDA/NASS